

美と技を護る

全文連

文化財
通信

第118号 令和2年9月



公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟

目次

- 旧山陽道矢掛本陣 岡山・石井家住宅 当主 石井 祥一郎 2
- 会員通信 3 ~ 12
- 新規指定 国宝・重要文化財紹介 13 ~ 14
- 表紙説明他 15 ~ 16

ます。

(2) 紺糸威鎧兜大袖付

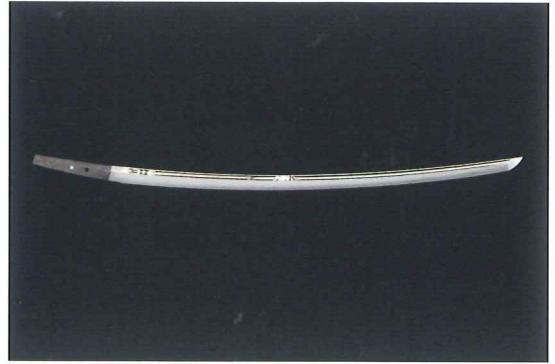


重文 紺糸威鎧兜大袖付（鹿児島神宮所有）

島津貴久公時代の家老樺山幸久（善久）氏が寄進されたものと伝えられています。同氏は島津家の名将と言われる貴久公、義久公、義弘公の三代に亘り仕えた家老であり、大隅長浜城主として貴久公の時代には名だたる戦勝を上げ、また和歌の達人でもあり、この鎧の寄進の年代は不詳ですが、南北朝時代の作であると言われています。黒漆の盛り上げの本小札を紺糸で威したもので、胴丸や腹巻型の鎧が盛んになりつつあった時代の特徴をよく表しています。兜は極めて精巧に作られており、二十八間四方白小星の兜針で、しころは笠近く五段を紺糸で威し、前立は枝菊高彫りの鋏台に大ぶりの鋏型を挿入しています。胴の小札の大きさ、兜のしころの広がり等、南北朝時代の特徴を表していると言われています。

(3) 刀剣一振 銘 相州住秋広 明德三

この刀は島津氏第 27 代斉興公が文政元年（1818）に奉納されたと伝えられているもので、東の銘、表の相州住秋廣、裏の明德三により南北朝時代の明德 3 年（1392）相模国（神奈川）の刀匠の作と思われます。刀身は 63.6 センチメートルの小太刀で、梵字の浮き彫りが施されています。先の終戦時に接収され、赤羽刀[※]として行方が判らなくなりましたが、平成 15 年に縁があり



重文 刀 銘 相州住秋広（鹿児島神宮所有）

帰宮しました。

以上の 4 点が重要文化財の指定を受けている宝物であり、いずれも貴重な価値があり長年経過により退色、損傷が見受けられる為、黎明館に寄託しています。

※^{あかばねとう}赤羽刀 第二次世界大戦直後の連合国軍占領下の日本において、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の指令によって接収された刀剣類のうち、廃棄処理を免れて後世に伝わった一部を指す通称。

最新の免震装置と顔認証カメラ

賛助会員 広島・奥田商事株式会社
代表取締役 奥田 企三宏

弊社は広島市に本社を置き、防犯カメラの製造・販売・設置・保守、免震装置の販売・設置・保守を全国で行う奥田商事株式会社でございます（創業 1950 年、設立 1972 年）。

2015 年に全文連様の賛助会員となり、神社仏閣所有者様の文化財保護に対する現場の様々なご意見やお考え、継続的に文化財を保護する難しさに接し、勉強の日々です。

現在、地球規模でコロナ感染症が猛威を振るう中、外出時はマスク着用が必須となり、それに伴いこれまでとは異なる『新しい生活スタイル』や『ソーシャルディスタンス』という言葉も耳にするようになりました。医学が発達し、衛生面でも格段に向上した現代社会でなぜこれほどまでに拡大するのか、少なくとも 1 年前にこの現状を予想することは難しかったと思います。

神社仏閣、またそれ以外の防犯が必要な現場の経験を踏まえまして、大切な文化財を守るという観点から、何かしらのご参考になればと思い、下記のとおり寄稿させて頂きました。

(1) 地震対策

今年5月以降、関東他では震度3～4の地震が続いており、コロナ禍で首都直下地震や南海トラフ巨大地震が発生する危険性を指摘する専門家もいます。仮に地震が発生した場合、コロナウイルス集団感染を防ぐために、修復作業員を減らす、または活動事態を自粛する場合も考えられ、これにより肝心の復興・復旧が長期化する可能性があります。事前の対策が大切だと思います。そのような状況の中、現在文化庁では建造物、美術工芸品の免震対策費用に国庫からの補助が行われています。



免振テーブル設置例

所有される文化財に免震台・免震装置を施工する場合は美術工芸品の管理事業に該当し、補助制度にはいくつか制約（所在地や管理団体、方法等）がございますが、対象者には補助対象経費の概ね50%が補助されます（『重要文化財（建造物・美術工芸品）修理、防災、公開活用事業費国庫補助要項 令和2年1月21日改正』参照）。

(2) マスク・サングラス着用時にも対応した顔認証カメラ

コロナ禍によりマスクの着用が当たり前となりましたが、その分、有事には被疑者の識別が難しくなっています。そのため、弊社顔認証カメラはマスクやサングラス着用の場合でも、登録者の識別はもちろん、未登録者でも性別、推定年齢の数値化が可能で、被疑者特定に結び付けています（予めマスク着用前の画像、または着用後の画像いずれか1枚あれば、その人物の行動履歴を管理することも可能）。被疑者の犯行は場当たり的ではなく事前に何度か現場を下見する傾向にあり、かつ外国人比率も高いのが特徴です。

余談ですが、我々カメラ業者は既設カメラ外観からおおよそのカメラ性能を見分けることが出来ますが、外国窃盗団のカメラ知識も相当ですので、犯罪抑止力は質が重要です。顔認証カメラは単に防犯だけでなく、顔認証により鍵を自動で施錠・開錠、未登録者の立入り禁止エリア進入時に自動アラーム機能等を併用することで従来のカードキー更新費用や警備料金の費用圧縮にも役立ちます。顔の識別が物理的に難しい場合は、独自のタグ（QRコードのようなもの）を携帯させることにより識別させることができ、発熱者の特定はサーモカメラを併用して作業の効率化を図ります。これらのシステムは、カメラ1台の小規模施設から空港や大規模商業施設まで実績がございます。なお弊社顔認証エンジンは2018年に国際機関のNIST（米国商務省国立標準技術研究所）主催のテストで、世界6位の評価を獲得しています。

文化財保護は大変なご苦労が生じることをよく認識しております。弊社の免震装置及び最新防犯

カメラが皆様の一助になればと思います。ご不明点等ございましたら、弊社web（www.okudacamera.co.jp/）お問い合わせフォームまたはお電話でお声掛け頂けますと幸いです。現地訪問含め御見積りは無

上部は属性情報（性別、推定年齢、笑顔度、マスク有り無し）、下部は登録情報



償、ご予算に応じたご提案を致します。重ねて、今後とも宜しくお願い申し上げます。

地域の文化財の維持・管理

賛助会員 兵庫・有限会社 播磨社寺工務店
代表取締役 神田 定秀

私が文化財建造物の修理工事に係わったのは、昭和51年9月着工の直営現場で、大工を始めて9年目で、寛文元年辛丑（1661）加西市の酒見寺三間多宝塔婆で、先祖の作の建物でした。現代は修理現場が請負方式になっている関係で、特に後継者の方には、一般社団法人日本伝統建築技術保存会・公益財団法人文化財建造物保存技術協会の養成研修で技術を習得する機会を持ち、現場で知り得た知識を確かなものに育てて頂きたいと思えます。

実測調査と現状調査、軒先・柱等高低差を遣方に仮設足場四隅に現状基準尺の間竿を準備し記入、高低差及び傾斜等を表にして比較するとよく理解が出来ます。解体を進めていく時、番付札を打って記入しています。修理箇所はスケッチノー



名草神社（兵庫県）本殿唐破風取付工事

トに腐朽の形状を記入し、金槌で叩いて内部確認をします。修理方法、修理材の継ぎ・剥ぎ・添木・埋木の寸法記入、並びに材種の確認、木出しをします。横架材は解体後ならべて寸法を決定し、間竿を作成。現寸引き付けは、解体前に小屋組・軒先隅木等実測により作成し、解体後の現寸との違いの確認を取り修正します。解体修理をした時、建物全体の材積をひろって、化粧材、野物材の材積を把握し、この中で修理材が2割～3割とか詳細は木拾いで出てきます。何回かの経験で、修理手間賃や材積等が把握出来てきます。現場は、文化財修理技術保存連盟（7団体）の職人さんに色々と教示して頂く良い環境の場所ですので、特に生かしてほしいです。

よく地産地消といいますが、兵庫県高砂市の立山石と加西市の長石は凝灰石で県の奨励石材です。現状は間知石を作っているベトナム人の若者1人石工と聞いています。加西市の長石の石工は高齢者で、すでに引退しています。行政も地域も何を考えているのかわかりません。

建築用材は、以前は赤松・黒松等の樹木が見られました。なぜか今では風樹の嘆きのように思うことがあります。兵庫県は、赤松（元気松）苗木の植樹を奨励しています。私達も毎年200～300本植えています。

先日、農政課の方に、隣接市の道路沿いの山林は手入れが出来ていますが、田園都市加西市の山は見苦しく思うと話しました。田園風景も手入れが行き届くと気持ちが良いです。

社寺古民家等、全て手入れの行き届いている姿は気持ちが晴れます。所有者の管理をする大変さは実感しています。田・山林・家居を持つことも大変です。建造物の維持・管理で特に木造の場合は、屋根の雨漏りと柱足元の腐朽・蟻害、建物同士の取合せ等の問題が多く起こります。最近は耐震の補強も増えています。

文化財建造物に係わっている者として、各建物のカルテを作成し、注意して初期のメンテの意思を育てていきたいと思っています。最近、文化財修理工事の金額が高額になってきています。所有者の負担が重いと思います。何か良い方法はないでしょうか。